

御國史

太田秀敬著

三

				和書門
		三五九		
	一四七	函	號	
五册	架			

庫	文	閣	內	
三九		三五九		和書
函		册	號	
二	四	五		
架	册			

內閣文庫	
番號	和 359
冊數	5 (3)
函號	139 124



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



御國史卷三

東京 太田秀敬編次

孝德天皇

天^{アマ}萬^{ヨロシ}豐^{トヨヒ}日^ヒ天皇ト號ス皇極天皇ノ同母弟ナリ

推古天皇ノ四年丙辰ニ降誕シ皇極天皇ノ四

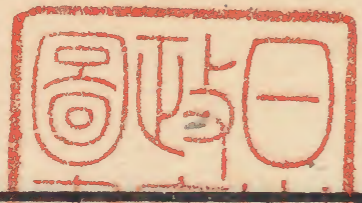
年六月十四日即位時ニ年五十〇皇極天皇位ヲ

天皇ニ讓ル天皇固ク辭ス是ニ於テ遂ニ即位ス

皇極天皇ヲ尊テ皇祖母尊ト曰フ大中兄皇子

ヲ以テ皇太子トス阿倍倉梯麻呂ヲ左大臣トナ

シ蘇我石川麻呂ヲ右大臣トナシ中臣鎌足ヲ以



御國史卷之三

テ内臣トナス左右大臣及ビ内臣ヲ置ク一此ニ
始ル○高向玄理タカムネ及ビ僧旻ソウミンヲ以テ博士トス○始
テ元ヲ改メテ大化ト曰フ皇朝ニテ年ニ號有ル
一此ニ始ル○二年諸國ニ詔シテ戸籍ヲ作り關
防斥候驛郵ヲ置ク且ツ鐘匱ヲ朝ニ設ケ事ヲ言
フ者ヲシテ書ヲ匱ニ投シ鐘ヲ撞テ告ゲ訴ヘシ
ム○諸國ニ詔シテ兵備ヲ修シ私ニ田園ヲ賣リ
及ビ貧弱ヲ兼并スルノ路ヲ杜ク○都ヲ攝津國
長柄ナガテ豐埼ニ遷ス是ヨリ先キ群鼠アリ大和ヨリ
攝津ニ徙ル人以テ遷都ノ兆トス○詔シテ葬制

ヲ定メ殉死ヲ禁ス○四年古冠ヲ罷ム○五年冠
十九階ヲ改制シ八省百官ヲ置ク○左大臣阿倍
倉梯麻呂薨ス○右大臣蘇我石川麻呂ヲ殺ス石
川麻呂ハ馬子ノ孫倉麻呂ノ子ナリ入鹿ヲ誅シ
テ功有リ 天皇異寵シ右大臣ニ任シ賜フニ金
策ヲ以テス是ニ至リ譖ヲ以テ殺サル○六年穴アノ
戸國司白雉ヲ獻ス即チ詔シテ白雉ト改元ス○
白雉三年田數ヲ定ム長サ三十步廣サ十二步ヲ
以テ一段トシ十段ヲ以テ一町トス段ニ租稻一
束半町ニ十五束又戸籍ヲ制ス五十戸ヲ里トス

里毎ニ長一人戸主ハ皆家長ヲ以テ之ヲ爲ス五
家相保シ一人ヲ長トナシ相檢察セシム○五年
十月十日 天皇崩ス壽五十九同十二月八日河
内國大坂磯長陵ニ葬ル 皇極天皇再ヒ踐祚ス
是ヲ 齊明天皇トス

齊明天皇

皇極天皇ノ重祚ナリ 元年巨勢德太古ヲ以テ
左大臣トス中臣鎌足内臣タルノ故ノ如シ○夏
空中龍ニ乗ル者ノ形有リ青油笠ヲ着テ葛城嶺
ヨリ馳テ膽駒山ニ入ル午時ニ及テ住吉ノ松樹

ノ上ヨリ西ニ向テ去ル終ニ見エズ○板蓋宮災
ス川原宮ニ遷ル○二年改テ宮地ヲ飛鳥岡本ニ
トス新羅百濟朝貢ス因テ其地ニ幕シテ之ヲ饗
ス遂ニ宮闕ヲ起シ後飛鳥岡本宮ト號ス○四年
皇子有間謀反シテ死ヲ賜フ○越國司阿倍比羅
夫肅慎ヲ伐チ生熊ニ羆皮七十ヲ獻ス○左大臣
大紫巨勢德太古薨ス○五年蝦夷ヲ伐テ後方羊
蹄ノ一郡ヲ置ク○小錦下坂合部石布大山下津
守吉祥ヲ唐ニ遣ス唐高宗相見テ問テ曰ク本國
天皇平安ナリヤ否ヤ答テ曰ク天地ト德ヲ合シ

自ラ平安ナルヲ得タリト答對一モ失言ナシ
○七年 天皇親ラ舟師ヲ率テ筑紫ニ赴キ進テ
那大津ニ至リ磐瀨行宮ニ居ル○天皇朝倉ノ社
樹ヲ伐リ橋廣庭宮ヲ造テ之ニ居ス社神崇ヲ作
シ宮中數妖怪アリ侍臣多ク死ス○七月廿四日
天皇崩ス壽六十八同八年二月二十七日大和國
越智岡上陵ニ葬ル前後在位凡十一年 孝謙天
皇ノ朝ニ至リ追テ二謚ヲ奉リ前ノ在位ヲ 皇
極ト曰ヒ後ノ在位ヲ 齊明ト曰フ太子位ニ即
ク是ヲ 天智天皇トス

天智天皇

天命開別天皇ト號ス 舒明天皇ノ長子ニシテ
母ハ 皇極天皇ナリ 推古天皇ノ二十二年甲
戌ニ降誕シ 舒明天皇ノ十三年立テ太子トナ
ル年二十八壬戌ノ年正月三日即位時ニ年五十
五○天皇皇子タルノ時中臣鎌足ト謀テ蘇我入
鹿ヲ誅シ 齊明天皇ニ從テ西征ス○元年唐ノ
將軍蘇定方高麗ヲ攻ム阿曇比羅夫河邊百枝ヲ
遣テ百濟ヲ救フ 天皇梓宮ヲ奉シテ難波ニ還
リ飛鳥川ニ殯ス 天皇性至孝喪ニ難波宮ニ居

御 卷之三

年ヲ踰トイヘ凡吉禮ヲ行ハス○唐人新羅ト
 合シテ高麗ヲ伐シ高麗急ヲ本邦ニ告グ乃チ兵
 ヲ發シテ之ヲ援フ○二年前將軍上毛野稚子間
 入大蓋中將軍巨勢譯語等ヲシテ兵二万七千ヲ
 率キ新羅ヲ伐タシメ二城ヲ拔ク○唐ノ軍新羅
 ノ軍ト合テ百濟ニ入ル我が軍之ト白江口ニ戰
 テ利アラズ百濟ノ兵潰ス百濟ノ王子豐璋高麗
 ニ奔ル○我が軍百濟ヨリ還ル唐遂ニ百濟ヲ滅
 ス○三年 天皇皇太弟大海人ニ命シテ冠位ヲ
 改増セシメ凡二十六階トス曰ク大織小織大縫

小縫大紫小紫大錦上大錦中大錦下小錦上小錦
 中小錦下大山上大山中大山下小山上小山中小
 山下大乙上大乙中大乙下小乙上小乙中小乙下
 大建小建○唐置ク所ノ百濟ノ鎮將劉仁軌大夫
 郭務悰ヲシテ表ヲ進メ物ヲ獻ス朝廷之ヲ饗シ
 物ヲ賜フ○詔シテ筑紫壹岐對馬等ニ烽候防堡
 ヲ置キ大堤ヲ筑紫ニ築キ水ヲ貯フ名テ水城ト
 曰フ○四年百濟ヨリ歸化スル者數千人其男女
 四百餘口ヲ近江ノ神前郡ニ徙シテ田ヲ給ス○
 唐ノ使人劉德高郭務悰來聘シテ物ヲ獻シ好フ

御
 國
 史
 卷之三

修ム歸ルニ及テ小錦守大石小山境部石積大乙
 岐彌針間等ヲシテ護送セシム○五年大水詔シ
 テ租調ヲ免ス○群鼠相率テ京師ヨリ近江ニ徙
 ル○去年歸化スル所ノ百濟ノ人二千餘口ヲ東
 國ニ分チ遣ス○六年都ヲ近江ノ滋賀ニ遷シ大
 津宮ト號ス衆人徙ルヲ樂マス民間歌謡ヲ作
 テ之ヲ刺ル夜ニ至リ所在屢災アリ○詔シテ大
 和ノ高安讚岐ノ屋島對馬ノ金田ニ城ク○唐ノ
 百濟ノ鎮將劉仁軌熊山ノ令司馬聰ヲシテ先キ
 ニ唐人劉德高郭務悰ヲ護送セシ守大石等ヲ送

リ筑紫ニ到テ歸ル勅シテ又伊吉博德笠諸石ヲ
 シテ司馬聰ヲ護送セシム○七年天皇始テ即
 位ノ儀ヲ行フ天皇天資至孝齊明天皇崩シ
 素服シテ制ヲ稱ス服除テイマ夕即位ノ儀ヲ行
 ハス是ニ至テ始テ之ヲ行フ○越國ヨリ燃ル土
 燃ル水ヲ獻ス○新羅ノ妖僧道行ナル者熱田ノ
 神殿ニ藏スル草薙ノ神劍ヲ盜ミ以テ國ニ還ラ
 ントス途ニ於テ風雨晦冥迷テ行クヲ能ス道行
 大ニ驚キ神劍ヲ棄テ去ル○小山下道守麻呂吉
 士ノ小鮪ヲ新羅ニ遣リ其王ニ賜フニ絹五十四

御
 國史
 卷之三
 六

綿五百斤韋一百枚ヲ以テス○八年 天皇山城ノ兜道郡山科ニ獵ス○内臣中臣鎌足病アリ○天皇親ラ其第ニ就テ病ヲ問ヒ藤原ノ姓ヲ賜ヒ大職冠ヲ授ケ内大臣ニ拜ス尋テ薨ス 天皇臨弟シテ賻ヲ賜フ大和國多武峯ニ葬ル○百濟ヨリ歸化ノ男女七百餘人ヲ近江ニ徙ス○九年詔シテ朝廷揖讓ノ儀道路避降ノ節ヲ定ム○詔シテ一城ヲ長門ニ築キ二城ヲ筑紫ニ築ク○十年皇子大友ヲ以テ太政大臣トナシ政ヲ攝セシム蘇我赤兄ヲ以テ左大臣ト爲シ中臣金ヲ以テ右

大臣ト爲シ蘇我果安巨勢比等紀大人ヲ以テ御史大夫ト爲ス太政大臣及ビ御史大夫蓋シ此ニ始ル○唐ノ百濟ノ鎮將劉仁軌使ヲ遣リ表ヲ上ル○常陸ヨリ短人ヲ獻ス長一尺六寸ト云フ○天皇東宮ニ在スルキ嘗テ造ル所ノ漏刻ヲ以テ新臺ニ置ク宮漏ヲ置クト此ニ始ル○讚岐ニ四足ノ雞ヲ生シ筑前ニ八足ノ鹿ヲ生ス○天皇不豫ナリ使ヲ法興寺ニ遣リ袈裟及ヒ黄金ノ鉢象牙沈水香旃檀香等ヲ以テ佛ニ供ス病篤ニ及ヒ皇太弟大海人ヲ召シ屬スルニ後事ヲ以テス蘇

我安麻呂素ト皇太弟ニ善シ内變ノ生ゼントヲ
 知リ密ニ皇太弟ニ告グ是ニ於テ皇太弟病ヲ稱
 シテ皇子大友ニ譲リ祝髮シテ僧トナラント請
 フ天皇之ヲ聽シ賜フニ袈裟ヲ以テス皇太弟
 即チ吉野山ニ入ル群臣之ヲ送り菟道ニ至テ還
 ル識者或ハ謂フ虎ヲ山ニ放スガ如シト遂ニ皇
 子大友ヲ立テ皇太子トス群臣太子ヲ奉シテ西
 殿ニ盟ト又天皇ノ前ニ盟フ○大炊省ノ鼻自
 ラ鳴ル○十二月三日天皇崩ス壽五十八山城
 國山科陵ニ葬ル天皇天資聖明恩威並ヒ行フ

嘗テ諸臣ニ詔シテ令二十二卷ヲ撰定セシム稱
 シテ近江ノ朝令ト謂フ後世天皇ヲ以テ中興
 ノ祖トス皇太子立ツ是ヲ弘文天皇トス

弘文天皇

伊賀天皇ト號ス天智天皇ノ長子ナリ母ハ伊
 賀采女宅子娘ト號ス孝徳天皇ノ大化四年戊
 申ニ降誕シ天智天皇ノ十年十月立テ太子ト
 ナル同十二月五日即位時ニ年二十四○二年阿
 曇稻敷ヲ筑紫ニ遣テ國喪ヲ唐ノ使人郭務棕ニ
 告グ務棕官屬ヲ率キ素服シテ哀ヲ舉ケ東ニ向

テ替首スト云フ○皇太弟大海人吉野ニ在リ
 天皇美濃尾張ニ勅シテ大ニ山陵ヲ造ル爲メノ
 役夫ヲ發シ各兵器ヲ執テシメ又京師ヨリ吉野
 ニ至ルマデ所在片候ヲ置キ菟道ノ守橋ノ官吏
 ヲシテ皇太弟從臣ノ運糧ヲ歇ムト聞キ諸臣ニ
 謂テ曰ク吾ガ位ヲ遜シテ世ヲ遜ルモノハ善ク
 百年ヲ終ント欲シテナリ今朝廷ノ臣悉ク我ヲ
 害セント謀ル事此ニ至リ豈ニ坐シテ亡滅ヲ待
 ツベケンヤト即チ村國男依和珥部君手身毛津
 廣ヲ遣テ美濃ニ往カシメ兵ヲ以テ不破ノ道ヲ

塞カシム尋テ皇太弟東ニ行ントス或人之ニ謂
 テ曰ク近江ノ群臣素ト陰謀アリ必ス道路ヲ閉
 塞セシ今從士片甲ナフシテ東行セシト豈ニ危
 フカラズヤト是ニ於テ皇太弟大分惠尺逢志摩
 ヲシテ大和ノ舊京ノ留守司高阪王ノ許ニ至リ
 驛鈴乞與ヘズンバ志摩ハ速ニ歸テ之ヲ報シ惠
 尺ハ直ニ近江ニ往キ吾ガ子高市大津ヲ携テ吾
 ト伊勢ニ會セヨト二人命ヲ受テ去ル高阪王果
 シテ驛鈴ヲ與ヘズ惠尺乃チ馳セテ近江ニ至ル
 志摩歸テ皇太弟ニ報ス皇太弟即チ起テ妃及ヒ

二子一女臣僕侍婢等三十餘人ヲ率テ東行ス事
倉卒ニ出ツ馬匹ナラシテ皆徒歩ス途ニ於テ犬
養、大伴ノ馬ヲ得テ皇太弟之ニ乗ル大和ノ津振
川ヲ過グル時車駕之ニ及ブ跡ヲ追テ來ル者漸
多シ偶馬五十匹米ヲ載セテ伊勢ヨリ來ル者ア
リ乃チ奪テ從者ヲシテ之ニ騎ラシメ往テ大野
ニ至テ日已ニ暮ル從者走テ民舍ノ籬笆ヲ取り
以テ炬火トナス夜半伊賀ノ隱^カ郡ヲ過ギ驛舍ヲ
焚キ呼テ曰ク 天皇東國ニ入ル吏民來テ奉迎
セヨト敢テ應スル者ナシ横川ニ至ル時黑雲有

テ天ニ竟ル廣サ凡十丈皇太弟式ヲ按シテ占シ
テ曰ク是天下分争ノ兆ナリ然レ^レ臣利竟ニ我ニ
在ルカ近江ノ多羅尾ニ至ルニ及テ來リ從フ者
稍多シ伊勢ニ入り大山ヨリ鈴鹿ニ至リ兵ヲシ
テ山道ヲ守ラシム 天皇之ヲ聞キ群臣ヲ名シ
テ計ヲ問フ衆議紛々一人有リ策ヲ獻シテ曰ク
今吉野ノ兵イマダ集ラズ人心イマダ附カズ此
機ニ乘ジテ急ニ輕騎ヲ發シテ以テ其後ヲ襲ヘ
若シ緩スル時ハ事測ルベカラズト 天皇聽ズ
物部日向穗積百足其弟百枝ヲ大和ニ佐伯男ヲ

筑紫ニ樟磐手ヲ吉備ニ韋那磐鋏書藥忍坂太麻呂ヲ東國ニ遣テ速ニ兵ヲ發セシム諸國皆命ヲ奉ゼズ使人ヲ擒ニシテ之ヲ斬ル獨リ韋那磐鋏僅ニ身ヲ以テ逃レ來ル○皇太弟高市大津ノ二皇子及ビ大分惠尺ニ會シテ美濃ニ至リ不破ノ道ヲ塞ク尋テ高阪王皇太弟ニ降ル○皇太弟ノ將坂本財兵ヲ率テ河内ニ入り高安城ヲ攻テ之ヲ陷ル既ニシテ天皇ノ將壹岐韓國ト衛我川ノ西ニ戰テ敗績ス○皇太弟諸將ヲ分署シテ二軍トナス紀阿閉麻呂多品治等一軍ヲ將テ大山

ヲ越テ大和ニ赴ク村國男依和珥部君手一軍ヲ將テ不破ヨリ發シ直チニ京師ヲ衝ク京師ノ兵ト混セントヲ恐レ朱ヲ衣ニ著テ以テ號トス田中足麻呂ヲシテ別ニ一軍ニ將トシ以テ近江ノ倉歷道ヲ守ラシム○天皇山部王及ヒ蘇我果安巨勢比等ヲシテ兵ヲ率テ村國男依和珥部君手ヲ不破ノ軍ヲ襲ハシム往テ近江ノ大上川ニ次ス既ニシテ王殺サレ果安自及シ軍皆潰ス○男依兵數万ヲ率テ不破ヨリ直チニ近江ニ入り京師ノ軍ヲ破テ其將境部藥ヲ斬ル又秦友足ヲ烏籠

山ニ撃テ之ヲ斬リ遂ニ軍ヲ進テ瀬田ニ至ル○
 天皇ノ將大野杲安皇太弟ノ將大伴吹負ヲ大和
 ノ奈良山ニ撃テ大ニ之ヲ破リ吹負單身僅ニ免
 ル既ニシテ散卒ヲ收メ西當麻ニ至リ壹岐韓國
 ト葦池ニ戰フ麾下ノ壯士ニ來目ナル者有リ刀
 ヲ揮ヒ急ニ馳セテ陣ヲ衝ク衆軍繼テ進ミ大ニ
 之ヲ破ル韓國軍ヲ棄テ奔ル○天皇ノ將田邊小
 隅夜半故ヲ衍テ皇太弟ノ將田中足麻呂ガ倉歷
 ノ營ヲ襲テ之ヲ破ル其兵足麻呂ガ兵ト混ゼン
 一ヲ恐レ豫メ號令ヲ定メ人毎ニ金ト言ハシム

其言ハザル者ハ輒チ之ヲ斬ル獨リ足麻呂之ヲ
 知リ金ト言テ僅ニ免ル小隅勝ニ乘シテ多品治
 ノ營ヲ襲テ敗績ス○男依吹負等諸將長ク驅テ
 大ニ進ミ遂ニ瀬田ノ橋邊ニ至ル是ニ於テ天
 皇親ヲ衆ヲ將テ橋西ニ軍ス先鋒知尊橋板ヲ撤
 スル一三文許リ別ニ一長板ヲ施シ索ヲ繫ケ機
 ヲ設ク皇太弟ノ兵其ガ爲ニ陷溺シ死スル者多
 シ軍敢テ進マズ大分稚臣ナル者獨リ大刀ヲ揮
 ヒ奮撃シテ索ヲ斷ツ衆軍之ニ乘シテ進ミ大ニ
 天皇ノ軍ヲ破リ知尊戰没シ全軍遂ニ潰ス天

皇物部麻呂等二三人ヲ携へ粟津ノ山前ニ奔リ
自ラ縊レテ崩ス時ニ年二十五皇太弟大ニ天
皇ノ黨與ヲ治シ遂ニ即位ス是ヲ天武天皇ト
ス

天武天皇

天淳中原瀛真人天皇又ハ淨御原天皇ト號ス
舒明天皇ノ第二子ニシテ天智天皇ノ弟ナリ
推古天皇ノ三十年壬午ニ降誕シ天智天皇ノ
七年二月二十三日立テ皇太弟トナル年四十七
白鳳元年癸酉二月二十七日即位時ニ年五十二

○天智天皇崩スルニ臨ミ天皇病ヲ稱シテ吉
野ニ遷ル天智天皇崩シ弘文天皇位ニ即ク
天皇吉野ヨリ兵ヲ起シテ弘文天皇ト戰ヒ之
ヲ滅シテ位ニ即ク○元年信濃ヨリ白雉ヲ獻ス
因テ元ヲ改テ白鳳トス大ニ功臣ヲ賞シ天下ニ
大赦ス○詔シテ不破關ヲ美濃ニ置ク○二年詔
シテ曰ク凡ソ初テ出身ノ者ハ先ヅ大舍人ニ補
シ而シテ後才ヲ選テ職ヲ授ケン○三年皇女大
來ヲシテ身ヲ泊瀨ノ齋宮ニ潔シ以テ伊勢ノ神
宮ニ侍セシム○對馬ノ國司其部内ヨリ出ス所

ノ白金ヲ獻ス乃チ之ヲ用テ諸神ヲ祀リ小錦以
 上ノ大夫ニ頒チ賜フ國司忍海^{オシノミ}大國^{オホクニ}ニ小錦下
 授ク蓋シ銀ヲ産スルノ始ナリ○四年親王諸王
 諸臣及ヒ諸寺ニ賜フ所ノ山澤林野ヲ除ス○始
 テ兵政司ヲ置ク王孫栗隈^{クリノケ}ヲ以テ長官トナシ大
 伴御行^{ミツツ}ヲ以テ副官トス○筑紫ヨリ唐人三十口
 ヲ獻ス詔シテ之ヲ遠江ニ處ク○五年天皇射
 ヲ西門ニ觀ル○八年天皇齊明天皇ノ陵ニ
 謁ス○詔シテ親王諸臣ヲシテ各兵馬ヲ貯ヘシ
 ム○九年駿河國ヲ割テ伊豆國ヲ置キ伊勢國ヲ

割テ伊賀國ヲ置ク○諸王群臣ニ勅シテ律令ヲ
 撰定シ法式ヲ改メシム○詔シテ川島皇子忍壁^{ニシカバ}
 皇子廣瀨王竹田王桑田王三野王及ヒ上毛野三
 千^チ忌部^{イミベ}首阿曇^{アツミ}稻敷^{イナヅキ}難波^{ナニハ}大形中臣大島平群^{ヒラノ}子首^{コオト}
 ヲシテ帝紀及ヒ上古ノ事ヲ撰セシム○皇子草
 壁ヲ立テ皇太子トシ萬機ヲ攝セシム○十年境
 部石積等ニ勅シテ新字四十四卷ヲ造ラシム○
 越ノ蝦夷伊高岐那等倭戸七千ヲ以テ別ニ一郡
 ヲ置ント請フ詔シテ之ヲ聽ス○詔シテ男女ヲ
 シテ悉ク結髮セシム○大星昏ニ見エ東ヨリ西

ニ流ル○空中物有リ形幡ノ如ク火色ナリ北ニ
流ル諸國皆見ユ○白氣東山ニ起ル○詔シテ今
ヨリ凡考選ニ應スル者審ニ其族姓操行ヲ檢シ
テ後之ヲ選スベシ若族姓明カナラザレバ操行
アリトイヘ凡考選ノ例ニ入ラズ○日高皇女疾
スルヲ以テ詔シテ大辟以下男女一百九十八人
ヲ赦ス○十一年筑紫大宰丹比島三足ノ雀ヲ獻
ス 天皇大極殿ニ御シ親王以下群臣ヲ宴シテ
雀ヲ觀ル○詔シテ大津皇子ヲシテ始テ朝政ヲ
聽シム○僧正僧都律師ヲ置キ以テ僧尼ヲ統治

セシム○多禰島ニ遣ル所ノ使歸リテ其地圖ヲ
獻ス○天皇倉梯ニ獵ス○諸國ニ詔シテ陳法ヲ
習ハシム○五位伊勢王大錦下羽田八國ヤク小錦下
多品治中臣大島及ヒ判官録史工匠ヲ遣テ天下
ヲ巡行シ諸國ノ疆域ヲ定メシム○詔シテ朝參
ノ制ヲ定ム○十二年天皇東庭ニ御シ善射ノ
者及ヒ侏儒左右舍人等ヲシテ射セシム○詔シ
テ廣瀨王及ヒ小錦中大伴安麻呂及ヒ判官録事
工匠等ヲ畿内ニ遣リ三野王及ヒ小錦下未メ女筑
羅等ヲ信濃ニ遣リテ建都ノ地ヲ相セシム○詔

シテ徒罪ヲ赦ス○詔シテ諸氏ノ姓ヲ定メテハ
 姓トス一ニ曰ク真人ニ曰ク朝臣三ニ曰ク宿
 禰四ニ曰ク忌寸五ニ曰ク道師六ニ曰ク臣七ニ
 曰ク連八ニ曰ク稻置乃チ守山公高橋公等十三
 人ニ真人ノ姓ヲ賜ヒ大_ナ三輪君物部連阿部臣等
 五十二人ニ朝臣ノ姓ヲ賜ヒ大伴連諸會臣等ノ
 五十人ニ宿禰ノ姓ヲ賜フ○京師及ヒ諸國地大
 ニ震シ山崩レ川溢レ城邑毀壞シ人畜死亡數ヘ
 ガタシ伊豫ノ温泉壅シ土佐ノ田圃五十餘万頃
 陷没シテ海トナル又東方ニ聲アリ鼓ノ如シ○

土佐國司言ス海潮暴溢シ調船多ク没ス○東方
 ニ隕星アリ大サ盆ノ如シ○美濃尾張伊賀伊勢
 ノ四國ニ詔シテ今ヨリ以後調年ニハ役ヲ免シ
 役年ニハ調ヲ免ス○大和ニ四足ノ雞ヲ産シ丹
 波ニ十二角ノ犢ヲ産ス○十三年皇太子及ヒ諸
 皇子ニ爵位ヲ進ム○唐人百濟人高麗人一百四
 十七人ニ爵位ヲ賜フ○信濃灰ヲ雨シ草木皆枯
 ル○天皇飛鳥寺ニ幸シ佛ヲ禮シ珍寶ヲ供ス○
 詔シテ東山道美濃以東東海道伊勢以東ノ諸國
 有位ノ者課役ヲ免ス○始テ神寶ヲ伊勢ノ兩大

神宮ニ奉ス○詔シテ二十年毎ニ兩大神ノ宮ヲ
 改造シ遷宮ノ儀ヲ行フ著シテ永式トス○勅シ
 テ宮處王廣瀨王難波王竹田王彌努王ヲ京畿ニ
 分チ遣テ民間ノ兵器ヲ檢セシム○詔シテ諸臣
 ヲ東海東山山陽山陰南海筑紫ニ遣テ民ノ疾苦
 ヲ問ハシム○皇太子及ヒ諸臣四十八人ニ羆皮
 羊皮ヲ賜フ各差有リ○天皇不豫詔シテ經ヲ
 大宮川原飛鳥寺ニ誦シテ之ヲ禱ル○淨大肆
 泊瀨王直廣肆巨勢馬飼及ヒ判官以下二十人ヲ
 以テ畿内ノ役ヲ掌ラシム○朱鳥元年攝津ノ人

百濟新興白瑪瑙ヲ獻ス○難波宮災ス○天皇御
 窟殿ニ御シ倡優及ヒ歌謠者ニ物ヲ賜フ○工匠
 陰陽師待醫及ヒ入唐ノ書生等二十四人ニ爵位
 ヲ授ク○諸司有功ノ者二十八人ニ爵位ヲ加フ
 ○天皇疾アリ之ヲトスルニ草薙劔崇ヲ為スト
 因テ劔ヲ尾張ノ熱田社ニ還納ス
 天智天皇ノ元年新羅ノ妖僧道行熱田ノ殿内
 ニ有ル所ノ草薙劔ヲ盜ミ持テ國ニ還ラント
 シテ果サズ是ヨリ劔ヲ禁内ニ藏ス此ニ至テ
 還納ス

御國史 卷之三

僧一百人ヲ宮中ニ召シテ金光明經ヲ讀シム○
 勅シテ天下ノ事大小ト無ク悉ク皇后及ヒ皇太
 子ニ啓セシム○天下ノ貧民ニ稻及ヒ貨財ヲ貸
 ス○諸王群臣觀世音ノ像ヲ造リ及ヒ觀世音經
 ヲ大宮大寺ニ講シ以テ 天皇ノ疾ヲ禱ル又僧
 尼一百人ヲ度シ百菩薩ヲ宮中ニ安シ觀世音經
 二百卷ヲ讀シム○秦石勝ヲシテ幣ヲ土佐大神
 ニ奉ゼシム○九月九日 天皇崩ス壽六十五同
 三年十一月十一日大和國檜隈大内陵ニ葬ル皇
 后位ヲ嗣グ是ヲ 持統天皇トス

持統天皇

高天原廣野姫天皇ト號ス 天智天皇ノ第二女
 ナリ母ハ遠智姫ト號ス 孝德天皇ノ大化元年
 乙巳ニ降誕シ白鳳元年二月二十七日立テ皇后
 トナル年二十九朱鳥元年十月攝政年四十二庚
 寅ノ年正月一日即位時ニ年四十六○天皇天資
 深沈ニシテ大度有リ節儉ニシテ禮ヲ好ミ母儀
 ノ德アリ 天武天皇ニ從テ吉野ニ入ル 天武
 天皇兵ヲ舉ルニ及テ每ニ與ニ謀議ス立テ皇后
 トナリ政事毗輔スル所多シ朱鳥元年 天武天

皇疾劇シ 天皇及ビ皇太子ニ勅シテ同ク機勢
ヲ決セシム 天武天皇崩シ 天皇朝ニ臨ミ制
ヲ稱ス 大津皇子不軌ヲ圖リ事發覺シテ死ヲ賜
フ及ヒ其黨三十餘人ヲ捕ヘ 噶杵道作トキマチノミチノリヲ伊豆ニ
流シ 新羅ノ僧行心ヲ飛驒ニ徙ス 〇詔シテ京師
ノ高年孤獨ニ布帛ヲ賜フ 各差アリ 〇筑紫太
宰三韓ノ男女僧尼六十二人ヲ獻ス 〇元年皇太
子公卿百寮ヲ率キ 殯宮ニ詣テ哀ヲ舉グ 〇直廣
肆田中法麻呂等ヲ新羅ニ遣テ 國喪ヲ告グ 〇歸
化ノ高麗人五十六人ヲ常陸ニ置キ 新羅人三十

六人ヲ下野及ヒ武藏ニ置ク 〇皇太子群卿百寮
國司國造等ヲ率テ 大内陵ヲ築ク 〇天智天皇
ノ為ニ法會ヲ崇福寺ニ設ケ 永ク國忌トス 〇二
年天下今年調賦ノ半ヲ復ス 〇百濟ノ僧道藏ニ
命シテ 雨ヲ請ハシム 大雨有リ 〇三年前殿ニ御
シテ 朝賀ヲ受ク 〇出雲ノ國司ヲシテ 蕃人風浪
ニ遭フ者ヲ送ラシム 〇筑紫大宰栗田真人隼人
一百七十四人ヲ獻ス 〇天皇吉野宮ニ行幸ス
〇皇太子薨ス 〇新羅使ヲシテ 國喪ヲ弔ス 土師
根麻呂ネマロヲ敕シテ 新羅ノ失禮ヲ責メ 其貢獻ヲ却

ク○施^キ基皇子及ヒ羽田齋伊奈部馬飼調老人等
 數人ヲ以テ撰善言司トナス○令二十二卷ヲ諸
 司ニ班ツ○左右京職及ヒ諸國司ヲシテ射場ヲ
 築カシム○河内ノ人柏原廣山ヲ土佐ニ流ス廣
 山爲ツテ兵衛ト稱シ兵衛虫部虎之ヲ捕フ因テ
 虎ニ位ヲ授ク○吉野宮ニ幸ス○攝津紀伊伊賀
 ノ海ニ吏ヲ置テ漁獵ヲ禁ス○高安城ニ幸ス○
 四年 天皇位ニ卽ク○幣ヲ畿内ノ神祇ニ班シ
 神戸田地ヲ増ス○新羅ヨリ歸化ノ者十二人ヲ
 武藏ニ置ク○京畿ノ耆老男女五千餘人ニ稻ヲ

賜フヲ各二十束○泊瀨ニ幸ス○高市皇子ヲ以
 テ太政大臣トシ丹比島ヲ以テ右大臣トス○天
 皇紀伊ニ巡狩セントスルヲ以テ詔シテ京師今
 年ノ租賦ヲ免ス○新羅人入唐ノ留學生及ヒ軍
 丁等ヲ護送シテ筑紫ニ至ル○太政大臣高市皇
 子百官ヲ率テ藤原ノ宮地ヲ相ス○始テ元嘉曆
 儀鳳曆ヲ行フ○天皇公卿百寮ヲ率キ藤原ニ幸
 シテ宮地ヲ相ス○五年夏淫雨節ニ過クルヲ以
 テ詔シテ公卿百寮ヲシテ酒肉ヲ禁斷シ京畿ノ
 諸寺ヲシテ經ヲ誦セシムルヲ五日○伊豫ノ國

司田中法麻呂本州宇和郡ヨリ出ス所ノ白金等
ヲ獻ス○使ヲ遣テ龍田ノ風神及ヒ信濃ノ須波
水内等ノ神ヲ祭ラシム○川島皇子薨ス○大嘗
ス詔シテ神祇官ノ諸司及ヒ播磨因幡ノ郡司以
下百姓男女大嘗ニ奉事スル者ニ食納ヲ賜フ○
六年 天皇將ニ伊勢ニ幸セントス中納言直大
貳三輪高市麻呂上表シ農時ニ方テ幸スルヲ
諫ム 天皇聽ズ遂ニ伊勢ニ幸ス車駕過ル所ノ
神郡及ヒ伊賀伊勢志摩今年ノ調役ヲ免シ其國
造等ニ冠位ヲ授ケ又駕ニ從フ騎士諸司荷丁ヨ

リ行宮ヲ造スル役夫ニ至ルマテ亦今年ノ調役
ヲ免ス○車駕過ル所ノ志摩ノ百姓男女年八十
以上ニ稻ヲ賜フ各差有リ○天下ノ男女困窮
スル者ニ稻ヲ賜フ○相摸ヨリ赤鳥ノ雛ヲ獻ス
○諸國大水使ヲ郡國ニ遣テ巡行セシメ民ノ水
災ニ遭テ自存スル能ハザル者ニ稟貸シ山林池
澤ノ禁ヲ弛ス又京畿ニ詔シテ金光明經ヲ講セ
シム○使ヲ遣テ伊勢大和住吉紀伊大神ニ奉幣
シテ新宮ヲ造ルヲ告ク○天皇藤原ノ宮地ヲ
觀ス○先キニ赤鳥ヲ獻セシ相摸ノ國司布勢色

布智御浦郡ノ少領某及ヒ赤鳥ヲ獲シ鹿鳥櫟樟
 ニ位ヲ授ケ物ヲ賜フ○七年京師ノ男女年八十
 以上及 窮乏ノ者ニ布ヲ賜フ○漢人踏歌ヲ奏
 ス踏歌ノ節蓋シ此ニ始ル○造京司衣逢王等ヲ
 シテ其堀ル所ノ融ノ瘞メシム○新羅使ヲシテ
 其國喪ヲ訃シム詔シテ之ニ賻ヲ賜フ○天下ヲ
 シテ桑紵梨栗蕪菁ヲ植ヘシム○天皇藤原ノ宮
 地ヲ巡行ス又多武峯ニ幸ス○天武天皇ノ爲ニ
 無遮大會ヲ内裏ニ設ケ悉ク繫囚ヲ赦ス○始テ
 仁王經ヲ諸國ニ講ス○陣法博士等ヲ遣テ武ヲ

諸國ニ講ス○近江ノ益須郡ニ醴泉出ツ○八年
 大宅麻呂臺八島黃文本實ヲ以テ鑄錢司トス○
 去年近江ノ益須郡ヨリ醴泉湧出シ諸ノ病者益
 須寺ニ宿シ之ヲ飲テ多ク差ルヲ以テ水田四町
 布六十端ヲ寺ニ給シ本郡今年ノ調役雜徭ヲ復
 シ及ヒ國司以下位一階ヲ進メ其始テ醴泉ヲ得
 シ者ニハ絹二匹布十端鍬十口ヲ賜フ○河内ヨ
 リ白キ山雞ヲ獻ス勅シテ本郡ノ大領少領ニ各
 位一級ヲ授ケ鳥ヲ獲シ者ニ位及ヒ物ヲ賜フ○
 飛驒ノ荒木郡ヨリ白キ蝙蝠ヲ獻ス其獲シ者ニ

位及ヒ絹綿布ヲ賜ヒ其戸役ヲ免ス○天皇藤原
宮ニ遷居ス百官拜朝尋テ親王以下郡司ニ至ル
マテ絹綿布ヲ賜ヒ大ニ公卿大夫ヲ宴ス○九年
新羅王其子金良琳ヲシテ貢獻セシメ及ヒ奏シ
テ國政ヲ請フ○大隅ノ隼人ノ相撲ヲ觀ル○大
早ニヨツテ大夫謁者ヲ遣テ雨ヲ京畿ノ諸社ニ
祈ル○直廣肆小野毛野務大貳伊吉博徳ヲ新羅
ニ遣ル○十年ニ槻宮ニ幸ス○大政大臣高市皇
子薨ス○十一年詔シテ天下ノ鰥寡孤獨篤癡自
ラ存スルヲ能ハザル者ニ稻ヲ賜ス○皇孫珂瑠

ヲ立テ皇太子トス○直廣壹當麻國見ヲ以テ東
宮大傅トシ直廣參路跡見ヲ以テ大夫トシ直大
肆巨勢栗持ヲ以テ亮トス○無遮大會ヲ東宮ニ
設ク○天皇不豫詔シテ經ヲ京師ノ諸寺ニ讀マ
シム○幣ヲ神祇ニ班ス○盜賊一百九人ヲ赦ス
○八月位ヲ皇太子ニ禪ル皇太子即位ス是ヲ
文武天皇トス

文武天皇

天之眞宗豐祖父天皇ト號ス幼名ハ珂瑠
天皇ノ太子草壁皇子ノ子ニシテ母ハ元明天

御國史 卷之三

皇ナリ 天武天皇ノ白鳳十一年癸未ニ降誕シ
 持統天皇ノ十一年二月十六日立テ太子トナル
 年十五同年八月一日即位始メ草壁皇子薨シテ
 後太子ヲ立ル^トヲ議ス群議決セス葛野^{カトス}王進テ
 曰ク皇朝ノ典子孫相承ク兄弟相及ブガ如キハ
 亂ノ端ナリ先太子ノ子珂瑠王在リ誰カ敢テ之
 ヲ間セン弓削皇子^{ユヅ}言アラント欲ス葛野王之ヲ
 叱ス是ニ於テ議遂ニ決シ立テ太子トナル葛野
 王ハ 弘文天皇ノ子ナリ○元年 持統天皇ヲ
 尊テ太上天皇トス○藤原宮子ヲ以テ夫人トス

○多治比島右大臣タル^ト故ノ如シ○新羅人入
 貢ス○諸國今年ノ田租雜徭及ビ庸ノ半ヲ免シ
 高年ヲ優恤シ親王以下百官ニ物ヲ賜フ○諸國
 ヲシテ毎年放生セシム○京師嘉禾ヲ生シ近江
 ヲリ白鼈ヲ獻シ丹波ヨリ白鹿ヲ獻ス○陸奥蝦
 夷方物ヲ獻ス○諸國大饑詔シテ之ヲ賑給ス○
 詔シテ正月往來行賀ノ禮ヲ禁ス犯ス者ハ淨御
 原^{ハラ}ノ朝制ニ依テ之ヲ罰ス○二年多氣^{タケ}ノ神宮ヲ
 度會^{ワタラヒ}ニ遷ス○新羅ノ貢物ヲ諸社ニ供シ及ヒ大
 内陵ニ獻ス○因幡ヨリ銅鑛ヲ獻ス○賀茂ノ祭

日ニ會衆騎射スルヲ禁ス○務廣貳文博士刑部眞木等ヲ南島ニ遣テ國ヲ覓シム因テ戎器ヲ給ス○夏大旱ニヨツテ幣ヲ諸社ニ奉シ馬ヲ芳野水分峯ニ奉シ及ヒ京畿ノ名山大川ニ於テ雨ヲ祈ル○使ヲ諸國ニ遣テ田疇ヲ視セシム○太宰府ニ勅シテ大野基肆鞠智ノ三城ヲ繕治フ○始テ答法ヲ定ム○公私ノ奴婢ヲ檢覈シ博戲游手ノ徒ヲ禁ス○下野備前ヨリ赤烏ヲ獻ス伊豫ヨリ白鑱ヲ獻ス○勅シテ高安城ヲ修ス○周防ヨリ銅鑱ヲ獻ス○託基皇女ヲ遣テ伊勢ノ齋宮ニ侍セシム○伊勢ヨリ白鑱ヲ獻ス對馬ヨリ金鑱ヲ獻ス○勅シテ越後ノ石船柵ヲ修ス○三年京師ノ女子四子ヲ一産ス勅シテ純綿布稻及ヒ乳母ヲ賜フ○河内ノ錦部郡ヨリ白鳩ヲ獻ス詔シテ本郡今年ノ租役ヲ免シ鳩ヲ獲ル者ニ復給三年及ヒ畿内ノ徒罪以下ヲ赦ス○役小角ヲ伊豆ノ大島ニ流ス

小角ハ大和茆原ノ人ニシテ號シテ役ノ行者ト曰フ性敏悟釋典ニ通シ咒術ヲ善ス年三十ニシテ家ヲ棄テ葛木山ヲ入り粒食ヲ絶ツ



韓國廣足之師ト事之後其能ヲ害シ誣ル

ニ妖妄行シテ衆ヲ惑スヲ以テ是ニ於テ竟

ニ捕ヘテ之ヲ流ス

○多靴夜久庵美度感諸島ノ人來貢ス位ヲ授ケ

物ヲ賜フ

多靴島ハ薩摩ノ海中ニアリ天長元年ヨリ大

隅國ニ隸シテ郡トス

○詔シテ山田寺ニ封三百戸ヲ施シ限ルニ三十

年ヲ以テス

天皇大安寺ニ幸シ五百ノ僧ヲ聚

テ大供養ヲ設ク蓋シ

天皇誓ヲ發シ丈六ノ佛

像ヲ造ラント欲ス夢兆ニ因テ大鏡ヲ佛前ニ懸

ケ僧ヲ請テ供養ス○四年諸國ニ詔シテ收地ヲ

定メ以テ牛馬ヲ放タシム○諸王諸臣ニ勅シテ

兵仗ヲ蓄ヘシム○僧道照死ス遺言シテ栗原ニ

火葬ス火葬蓋シ此ニ始ル

道照ハ河内ノ人ナリ

孝德天皇ノ時遣唐使

ニ隨テ唐ニ往キ玄奘三藏ニ師トシ事ヘ始テ

禪定ヲ習フ後遣唐使ニ隨テ歸リ天下ニ周游

シ諸津濟ノ處ニ船ヲ儲ヘ橋ヲ造ル山背ノ宇

治橋ハ即チ其創造スル所ナリ

御
國
史
卷
之
三
十
三

○使ヲ新羅ニ遣ル○淨大參忍壁親王及ヒ直廣
 壹藤原不比等博士下毛古麻呂伊吉博德調老人
 伊奈部馬養等ニ勅シテ律令ヲ撰定セシム○越
 後佐渡ニ勅シテ石船柵ヲ修セシム○右大臣多
 治比島ヲ以テ左大臣トス○始テ製衣冠司ヲ置
 ク○巡察使ヲ東山道ニ遣ル○詔シテ王臣ヲシ
 テ令ヲ説カシム○直廣肆佐伯麻呂ヲ以テ遣新
 羅大使トシ勢大肆佐未賀佐麻呂ヲ以テ小使ト
 ス○畝傍陵墓及ヒ吉野宮ノ樹木故無フシテ凋
 枯ス○巡察使ヨリ諸國司ヲ奏狀スルヲ以テ其

能否ニ隨テ階ヲ進メ封ヲ賜フ阿倍御主人大伴
 御行船秦勝漆部道麻呂等ノ治績ヲ褒シ封ヲ授
 ケ物ヲ賜フ○京畿ノ僧尼年九十以上ノ者ニ純
 綿布ヲ賜フ○佐伯麻呂等新羅ヨリ至リ孔雀及
 ヒ珍物ヲ獻ス○使ヲ周防ニ遣テ船ヲ造ラシム
 ○天下ノ盜賊ヲ逮捕セシム○大和葛上郡ノ女
 子三子ヲ一産ス袍綿布稻及ヒ乳母ヲ賜フ○大
 寶元年正月朔 天皇大極殿ニ御シ百官ノ朝賀
 ヲ受ク蕃客陪從ス朝廷ノ禮儀是ニ於テ大ニ備
 ル○大納言大伴御行薨スルヲ以テ大射ヲ停ム

御行ハ大連金村ノ玄孫ニシテ右大臣長徳ノ子ナリ壬申ノ亂天武天皇ニ從テ功有リ小錦下ヲ授ク持統天皇ノ朝正廣肆ニ進ミ當朝ニ及テ正廣參ニ叙シ大納言ニ任ス是ニ至テ薨ス、天皇甚々悼惜シ爲メニ大射ヲ罷メ藤原不比等ヲシテ第ニ就テ宣詔シ正廣貳右大臣ヲ贈ル皇朝贈官ノ典此ニ始ル

○二月始テ大學寮ニ釋奠ス○丹波地震スルヲ三日○凡海鹿鎌ヲ陸奥ニ遣テ金ヲ治セシム○對馬ヨリ金ヲ貢ス因テ建元シテ大寶ト曰フ○

始テ新令ニ依テ官名位號服色ヲ改製シ位冠ヲ賜フヲ停メ易ルニ位記ヲ以テス親王一品ヨリ四品ニ至ル諸王群臣一位ヨリ八位ニ至ル各正從有リ第九位ヲ初位ト曰フ大少有リ四位以上又上下アリ總テ三十等○大納言阿倍御主人ヲ以テ右大臣トス群臣爵ヲ進ルヲ差有リ○右大辨下毛野古麻呂等始テ新令ヲ講シ諸王百官ヲシテ就テ之ヲ習ハシム○五月五日天皇五位以上ノ走馬ヲ觀ル即チ今ノ競馬是ナリ左大臣多治比島薨ス是ヨリ先キ天皇其高年ヲ

優シ靈壽杖ヲ賜フ是ニ至テ薨ス年七十八島ハ
多治比古王ノ第四子ナリ○律令成ル三品忍壁
親王正三位藤原不比等以下ニ物ヲ賜フ○始テ
内舍人九十人ヲ置ク○道首名ヲシテ僧尼ノ令
ヲ大安寺ニ講セシム○太上天皇吉野ノ離宮ニ
幸ス○壬申ノ功臣ヲ論叙シ食封ヲ賜フ○明法
博士ヲ遣テ東海東山南海北陸山陰山陽ノ六道
ニ新令ヲ講授セシム○播磨淡路紀伊大風海水
溢シ田畝ヲ傷損ス使ヲ遣テ巡恤セシム○河内
攝津紀伊ニ於テ行宮及ヒ御船ヲ造ラシム○高

安城ヲ廢ス○使ヲ諸國ニ遣テ百姓ヲ賑恤セシ
ム○天皇紀伊ニ幸ス○武漏温泉ニ幸ス駕ニ從
フ騎士今年ノ調庸役夫田租ヲ免ス○彈正臺ヲ
シテ畿内ヲ巡察セシメ田ノ租調ヲ除ス○二年
春正月天皇大極殿ニ御シテ朝賀ヲ受ク大納
言以上始テ禮服ヲ着諸王臣以下朝服ヲ着○始
テ新律度量ヲ天下ニ頒ツ○甲斐ヨリ梓弓五百
張ヲ獻ス之ヲ太宰府ニ送ル○筑紫七國及ヒ越
後ヲシテ采女兵衛ヲ貢セシム○從三位大伴安
麻呂正四位下栗田真人從四位上高向麻呂從四

位下^{シモツケ}下毛野古麻呂小野毛野ニ勅シテ朝政ヲ參
議セシム○越中ノ四郡ヲ割テ越後ニ隸ス○飛
驒ヨリ神馬ヲ獻ス因テ天下ニ大赦シ國司以下
位ヲ進メ物ヲ賜フ百姓ハ三年ヲ給復ス○諸國
國造ノ氏ヲ定ム○民部尚書粟田真人ヲ以テ遣
唐執節使トシ左大辨高橋^{カキ}笠間ヲ以テ大使トシ
右兵衛坂^{サカ}合部^{オホ}大分^{オホ}ヲ以テ副使トシ無位山上^{オウ}億
良ヲ以テ少錄トシ唐ニ遣ル○多禰^{タニ}隼人^{ムネ}叛ス兵
ヲ遣テ之ヲ討ス薩摩ノ國司國內要害ノ地ニ就
テ柵ヲ建テ戍ヲ置ント請フ之ヲ許ス○詔シテ

中外文武ノ官ヲシテ新令ヲ講習セシム○美濃
大野郡ノ人八蹄ノ馬ヲ獻ス勅シテ稻一千束ヲ
賜フ○雷日本武尊ノ墓ヲ震ス使ヲ遣テ之ヲ祭
ル○勅シテ伊勢伊賀美濃尾張參河ニ行宮ヲ營
シム○太上天皇三河ニ幸ス車駕歷ル所ノ國今
年ノ田租ヲ免ス○詔シテ上曾祖ヨリ下玄孫ニ
至ルマデ奕世孝順ノ者ノ門閭ヲ旌シ舉戸給復
以テ義家トス○詔シテ天智天武兩天皇ノ
忌日ニ諸司ヲシテ務ヲ廢セシム○星晝見ユ○
始テ岐嶽ノ山道ヲ開ク○太上天皇不豫因テ天

下ニ大赦シ四百ノ僧ヲ度シ畿内ヲシテ金光明
經ヲ講セシム○十二月廿二日太上天皇持統天皇ナリ

崩ス壽五十八同月十七日飛鳥岡ニ火葬シ同廿

六日檜隈大内陵ニ葬ル齋ヲ四大寺ニ設ク

四大寺ハ大安寺藥師寺元興寺弘福寺ナリ

○三年春正月王卿百官太上天皇ノ殯宮ニ拜ス

○正六位下藤原房前ヲ東海道ニ從六位上多治

比三宅麻呂ヲ東山道ニ從七位上高向オホムネヲ北

陸道ニ從七位上小野馬養ウマカヒヲ南海道ニ從七位下

波多ヨサ余射サヲ山陰道ニ正八位上穗積ホヅメ老オシヲ山陽道

ニ正七位上大伴大沼田オホノヌマヲ西海道ニ遣テ政績ヲ

省察シ冤枉ヲ申理ス太政官ニ奏シ以テ式部ニ

屬シ令ニ依テ論定ス罰スベキ者ハ刑部ニ屬ス

○新羅ノ使來テ其國喪ヲ訃ク○三品忍壁親王

ヲ以テ太政官ノ事ヲ知セシメ左右大臣ノ上ニ

列ス○律令ヲ定ル功ヲ賞シ下毛野古麻呂伊吉

博徳及ヒ調老人伊奈部馬養ノ子ニ田及ヒ封戸

ヲ賜フ○太上天皇ノ爲メニ齋ヲ四大寺及ヒ四

天王山田等ノ三十三寺ニ設ク及ヒ四大寺ヲシ

テ大般若經ヲ讀シ一百ノ僧ヲ度ス○右大臣阿

倍御主人薨ス御主人ハ本姓阿倍布勢朝臣其先
大彦命ヨリ出ツ天武天皇ノ時直大壹トナリ
持統天皇ノ時正廣肆ニ進ミ大寶元年右大臣ト
ナリ是ニ至テ薨ス○災異頻リニ見ヘ年穀登ラ
ザルヲ以テ京畿及ビ太宰府管内ノ調ノ半ヲ減
シ天下ノ庸ヲ免ス○五位以上ヲシテ賢良方正
ノ士ヲ舉ケシム○使ヲ遣テ雨ヲ名山大川ニ祈
ラシム○從五位下波多廣足ヲ以テ遣新羅大使
トス○慶雲元年大納言石上麻呂ヲ以テ右大臣
トス○始テ百官跪伏ノ禮ヲ停ム○諸國ノ印ヲ

鑄ル○信濃ヨリ梓弓一千四百張ヲ獻ス之ヲ太
宰府ニ送ル○詔シテ諸國ノ兵士ヲシテ團別ニ
分テ十番トナシ每番教習務テ鍛鍊セシム令條
ノ外雜使ヲ得ズ○備前ヨリ神馬ヲ獻ス勅シテ
本郡今年ノ調ヲ免ス○五月大極殿西樓ノ上ニ
慶雲見ル因テ天下ニ大赦シ元ヲ慶雲ト改メ高
年癘疾ノ者ヲ賑給シ壬寅ノ歲以前ノ逋税ヲ免
ス○阿波ヨリ木連理ヲ獻ス○大旱ニヨリ幣ヲ
諸社ニ奉シテ雨ヲ祈ル○粟田真人等唐ヨリ還
ル真人初メ唐ニ適キ楚州ノ鹽城縣ニ至リ唐ヲ

華メテ周ト稱スト聞キ大ニ驚異ス彼ノ人曰ク
 我聞ク日本國ハ人民豐樂禮義敦行ト余使人ヲ
 視ルニ儀容高潔ナリ君子國ノ名虚カラズ既ニ
 シテ武則天ニ見ユ則天之ヲ麟德殿ニ宴ス真人
 進徳冠ヲ冠シ項華鬘アリ四披ス紫袍帛帶威儀
 神ハ如シ見ル者嘆美セザルナシ
 粟田真人ハ天足國押人命ノ後ナリ學ヲ好ミ
 能ク文ヲ屬ス天武天皇ノ時直大肆トナリ
 持統天皇ノ時筑紫太宰職トナル當朝ニ至テ
 民部尚書ヲ以テ遣唐執節使トナリ唐ニ適ク

○京畿ヨリ白燕ヲ獻ズ○京師ノ高年八十以上
 ヲ存問ス○波多廣足新羅ヨリ還ル○周防大風
 稼ヲ損ス○正六位上幡文通ヲ以テ遣新羅大使
 トス○使ヲ伊勢ニ遣テ幣帛鳳凰鏡窠子錦ヲ太
 神宮ニ奉ズ○持統天皇ノ爲メニ齋ヲ諸寺ニ設
 ク始テ藤原ノ宮地ヲ定ム民一千五百五戸ニ
 布ヲ賜フ○信濃伊賀伊豆疫ニヨツテ醫藥ヲ給
 ス○太宰府大風ニテ稼ヲ傷ス○二年 天皇倉
 橋ノ離宮ニ幸ス○夏大旱天下ニ大赦シ諸國ノ
 調半ヲ免ス○知太政官事忍壁親王薨ス親王ハ

天武天皇ノ子ナリ申ノ役 天皇ニ從テ東國ニ入ル九年詔ヲ奉シテ帝紀及ビ上古ノ事ヲ撰ス當朝ニ及デ勅ヲ奉ジ藤原不比等ト凡ニ律令ヲ撰定シ封ヲ益ス○二品穗積親王ヲ以テ太政官ノ事ヲ知セシム親王モ亦 天武天皇ノ子ナリ○幡文通新羅ヨリ還ル○頭八咫鳥ノ社ヲ大和ニ建ツ○諸國饑疫使ヲ遣テ賑恤シ醫藥ヲ給ス○越前ヨリ赤鳥ヲ獻ズ○使ヲ東海東山北陸山陰南海ノ五道ニ遣テ高年老疾鰥寡孤獨ヲ賑恤ス○新羅貢調ス○重制天下ノ婦女神部齋宮

宮人及ヒ老嫗ノ外皆髻髮ス○三年詔シテ百官祿アル者民利ヲ爭ヒ多ク山澤ヲ占シ疆界ヲ侵蝕スルヲ禁ス○勅シテ新羅ノ調ヲ伊勢ノ神宮及ヒ七道ノ諸社ニ奉ス○京畿ノ盜賊ヲ索捕ス○前中納言左京大夫三輪高市麻呂卒ス詔シテ從三位ヲ贈ル 高市麻呂ハ其先素盞鳴命六世ノ孫大國主ヨリ出ツ壬申ノ亂 天武天皇ノ將大伴吹負大和ニ在テ豪傑ヲ招來ス高市麻呂之ニ應シ兵ヲ將テ 弘文天皇ノ將廬井鯨ガ軍ヲ破ル

持統天皇ノ時中納言トナリ極諫シテ行ハレ
 ザルヲ以テ官ヲ辭ス後左京大夫トナル人ト
 爲リ學ヲ好ミ詩ヲ善ス卒スルニ及テ藤原麻
 呂詩ヲ作テ之ヲ吊ス云ク君臣誰云易臣義本
 自難奉規終不用歸去遂辭官

○京師ノ女子三子ヲ一産ス衣糧及ビ乳母ヲ賜
 フ○丹波但馬ノ山焚ル使ヲ遣テ幣ヲ神祇ニ奉
 シ以テ之ヲ救フ○周防ヨリ白鹿ヲ獻ズ○九國
 三島大ニ旱シ大風稼ヲ損ス使ヲ遣テ巡省セシ
 メ災ニ遭ノ甚シキ者ニハ調役ヲ免ス○越前ノ

山焚ル幣ヲ部内ノ神ニ奉シテ之ヲ救フ○美努
 淨麻呂ヲ以テ遣新羅大使トス○三品田形内親
 王ヲ遣テ伊勢ノ大神宮ニ侍セシム○使ヲ七道
 ニ遣テ始テ田租ノ法ヲ定ム○天皇難波ニ幸ス
 ○天下疾疫百姓多ク死ス十二月始テ土牛大儺
 ヲ作ル○四年春二月詔シテ群臣ヲシテ遷都ヲ
 議セシム○大納言藤原不比等ヲ增封ス及ビ親
 王以下四位以上及ビ内親王諸王嬪命婦等ノ封
 戸ヲ増ス○小納言正五位下威奈大村卒ス○天
 下大疫詔シテ之ヲ賑恤シ及ヒ幣ヲ諸社ニ奉シ

經ヲ京畿及ビ諸國ノ佛寺ニ讀シム○畿内霖雨
 苗ヲ損ス使ヲ遣テ之ヲ賑貸ス○美弩淨麻呂新
 羅ヨリ還ル○六月十五日天皇崩ス壽二十五
 遺詔哀ヲ舉ル一三日周月ニシテ服ヲ除ス十一
 月十二日飛鳥岡ニ火葬シ同二十日檜隈安古陵
 ニ葬ル群臣遺詔ヲ奉シ天智天皇ノ皇女ヲ請
 フテ位ニ即シム是ヲ元明天皇トス

元明天皇

日本根子天津御代豐國成姫天皇ト號ス小名ハ
 阿閉天智天皇ノ第四ノ皇女ニシテ持統天

皇ノ妹文武天皇ノ母ナリ母ハ姪娘ト號ス

齊明天皇ノ七年辛酉ニ降誕シ慶雲四年六月十

五日攝政時ニ年四十七同七月十七日即位○天

皇初メ天武天皇ノ皇太子草壁王ノ妃トナリ

文武天皇ヲ生ム文武天皇崩シ遺詔ニヨツテ

位ニ即ク○正月武藏秩父郡ヨリ銅ヲ獻ス因テ

元ヲ改テ和銅ト曰ラ天下ニ大赦シ耆老ニ粟ヲ

賜フ

百歳以上ハ三斛九十以上ハ二斛八十以上ハ

一斛

○孝順節義ノ者ヲ旌表シ窮老ヲ賑恤シ及ヒ武
 藏ノ今年ノ庸本郡ノ調ヲ免ス○從四位上中臣
 意美麻呂ヲ以テ神祇伯トナシ右大臣石上麻呂
 ヲ以テ左大臣トナシ大納言藤原不比等ヲ以テ
 右大臣トナス○美濃安八郡ノ女子三子ヲ一産
 ス稼及ヒ乳母ヲ賜フ○五月始テ銀錢ヲ行フ○
 長門ニ甘露降ル○京師ノ僧尼及ヒ百姓耆老ニ
 粟ヲ賜フ

百歳ハ二斛九十一斗八十八一斛

○八月始テ銅錢ヲ行フ○天皇平城ニ巡幸シテ

其地形ヲ觀ル○二年私ニ銀錢ヲ鑄ルヲ禁ス

○奥越二國ノ蝦夷叛ス因テ左大辨巨勢麻呂ヲ
 以テ鎮東將軍トシテ陸奥ニ赴カシメ民部大輔
 佐伯石湯ヲ以テ征狄將軍トナシテ越後ニ赴カ
 シメ内藏頭紀諸人ヲ以テ副トス遠江駿河甲斐
 信濃上野越前越中等ノ兵ヲ徵シテ之ヲ征ス○
 始テ造雜物法用司ヲ置ク○新羅調貢ス○諸國
 ヲシテ兵器ヲ出羽柵ニ輸セシム及ヒ越前越中
 越後佐渡ニ令シテ舟一百艘ヲ征狄所ニ送ラシ
 ム○八月銀錢ヲ廢シテ銅錢ヲ行フ○征狄將軍

佐伯石湯副將軍紀諸人等凱旋ス軍ニ從フ役夫
 復ヲ賜フ一年又天下ニ今年ノ田租ヲ賜フ○
 勅シテ造平城ノ京司ヲシテ墳隴ヲ發掘スル
 有レバ隨テ即チ瘞埋セシム○三年春三月都ヲ
 平城ニ遷シ左右ノ京坊ヲ置ク初メ文武天皇
 遷都ノ志アリ果サズ天皇即位シ議ヲ決シテ
 役ヲ起ス是ニ至テ遂ニ遷ル○日向ノ隼人曾君
 細麻呂荒俗ヲ教諭シ政化ニ馴服スルヲ以テ詔
 シテ外從五位下ヲ授ク○左大臣石上麻呂ヲ以
 テ舊京ノ留守トス

石上麻呂本姓ハ物部連大連目ノ後ナリ壬申
 ノ役弘文帝ニ從フ天皇ノ軍敗レテ大臣
 以下皆散ス唯麻呂獨リ從フ天武天皇ノ時
 大乙上ヲ授ケ遣新羅大使トナリ歸テ直廣參
 二進ミ姓ヲ石上ト賜フ文武天皇ノ時筑紫
 平總領トナル大寶中大納言ヲ以テ太宰帥ヲ兼
 又太宰帥此ニ始ル
 ○右大臣藤原不比等興福寺ヲ新京ニ創ス之ヲ
 山階寺ト謂フ○大官大寺ヲ新京ニ遷ス初メ
 舒明天皇ノ時大安寺ヲ百濟河上ニ遷シ大官大

寺ト名ク是ニ至テ復々移シ建ツ○四年春始テ
 都亭驛ヲ置ク○山城國紀伊郡飯盛山ニ始テ稻
 荷ノ祠ヲ建テ倉稻魂大田命大宮姫ノ三神ヲ祀
 リ以テ百穀豐穰ヲ祈ル○大稅ヲ諸國ニ貸シ三
 年其利ヲ收ムルヲ勿ラシム○始テ挑文師ヲ諸
 國ニ遣テ錦綾ヲ織ルヲ教ユ○詔シテ凡テ衛
 士凡弱緩急用ルニ足ラズ專ラ長官ニ委シテ勇
 敢ヲ簡點シ每歲代易セシム又六道ノ諸國ヲシ
 テ毎年器仗ヲ貢造セシメ牢固ナラザルモノハ
 巡察使出ル日審ニ校勘セシム○丹波ノ千足^チ等

ハ入外印ヲ偽造スルヲ以テ之ヲ信濃ニ流ス○
 詔シテ親王以下及ビ豪強ノ家多ク山野ヲ占シ
 民ノ産業ヲ妨グ今ヨリ以後嚴ニ之ヲ禁斷ス若
 シ墾開スベキ所アラバ國司ニ告テ官ノ處分ヲ
 聽カシム○五年河内高安ノ烽ヲ廢シ始テ高見
 及ヒ大和春日ノ烽ヲ置テ平城ニ達ス○諸國ノ
 民軍ニ役シ還師ノ日食糧乏シキ者ハ國司ヲシ
 テ撫養ヲ加ヘシメ又死スル者有レバ之ヲ葬リ
 其姓名ヲ録シテ本屬ニ報知セシム○正五位上
 太安麻呂^{フナヤス}其選述スル所ノ古事記三卷ヲ上ル初

文武天皇諸家藏スル所ノ載籍頗ル虚偽ヲ傳ヘ其眞ヲ失フヲ以テ之ヲ正サントス時ニ稗田阿禮ナル者有リ年三十八博聞強識皇國ノ舊事ニ通ズ因テ命ジテ其記スル所ヲ録サシム阿禮稿ヲ起ス既ニシテ文武天皇崩シテ其事果サズ天皇先志ヲ繼ント欲シ乃チ安麻呂ニ命シテ撰定セシメ是ニ至テ書成ル○美濃ヨリ木連理及ビ白雁ヲ獻ス○伊賀ヨリ玄狐ヲ獻ス因テ天下ニ大赦シ諸國今年ノ田租及ビ大和河内山城ノ調ヲ免ス○從五位下道首名ヲ以テ遣新

羅大使トス○太政官建議スル所ニ依リ陸奥ノ十二郡ヲ割テ始テ出羽國ヲ置ク○鷹居ノ社ヲ豐前ノ宇佐郡ニ造リ八幡大神ヲ祀ル○六年備前ヨリ白鳩ヲ獻シ伯耆ヨリ嘉瓜ヲ獻ス○四月丹波ノ五郡ヲ割テ丹後ノ國ヲ置キ備前ノ六郡ヲ割テ美作ノ國ヲ置キ日向ノ四郡ヲ割テ大隅國ヲ置ク○新格及ビ權衡度量ヲ天下ニ頒ソ○諸國ニ詔シテ風土記ヲ作ル其土地ノ山川原野ノ名號由來スル所及ビ耆老ノ傳ル所ノ舊聞異事皆録シテ上ラシム凡テ郡郷村里ノ名ハ二字

ヲ定用シ務テ佳字ヲ用ヒシム○道首名新羅ヨ
 リ還ル○大和宇多郡ノ人銅鐸ヲ長岡ノ野ニ得
 テ之ヲ獻ス其制常ニ異ニシテ音律呂ニ協フト
 謂フ○諸寺ノ田野ヲ占ルテ其數格ニ過ル者ヲ
 還收ス○大和ハ添下郡ニ孝子果安ナル者アリ
 父母兄弟ニ孝順ニシテ凡ソ人飢病アレバ自ラ
 私糧ヲ齎シテ巡視看養ス是ニ因テ鄉里其恩義
 ヲ感ジ敬愛スルテ親ノ如シ其妻亦善ク舅姑ニ
 事ヘ已レガ生ム所ノ子及ビ妾ノ子八人ト共ニ
 撫育スルト一人如シ許知麻呂ナル者ハ後母ニ

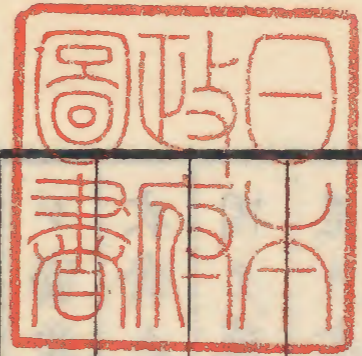
譖セラレテ父ノ家ニ入ルテ能ハズ然レモ曾テ
 怨色ナク孝謹愈篤シ郷邑之ガ為メニ化ス詔シ
 テ門閭ヲ旌表ス○七年詔シテ長親王舍人親王
 新田部親王施基親王長屋王ノ封ヲ益ス○從六
 位上紀清人正八位下三宅藤麻呂ニ勅シテ國史
 ヲ撰セシム○使ヲ七道ニ遣テ囚徒ヲ録サシム
 ○六月文武天皇ノ皇子美麻斯ヲ立テ皇太子
 トス○天下ニ大赦シ高年ニ穀ヲ賜フ
 百歳以上ハ五斛九十以上ハ三斛八十以上ハ
 一斛

○鰥寡孤獨篤癘自ラ存スルヲ能ハザル者ヲ賑恤シ及ビ孝子順孫義夫節婦其門閭ヲ表シ終身事フヲ勿ラシム○八年春正月諸夷來朝方物ヲ獻ス鼓吹騎兵ヲ朱雀門ニ列ス○慶雲東方ニ見ヘ遠江ヨリ白狐ヲ獻ジ丹波ヨリ白鴿ヲ獻ズ○皇太子始テ拜朝シ瑞雲見ルヲ以テ詔シテ天下ニ大赦シ百官ノ位ヲ進ム○五月諸國ノ朝集使ニ詔シテ曰ク天下ノ百姓多ク本貫ヲ背シ他郷ニ離散シ課役ヲ規避シ其淹留三月ニ踰ル者ハ即チ土斷調庸ヲ輸シ國法ニ從フベシ又諸國郡

司ニ詔シテ治ノ殿最ヲ三等ニ分ツ産業ヲ催勸シ資産豐足スル者ヲ上等トス催勸ストイヘ庶衣食之欠スル者ヲ中等トス田疇荒蕪百姓飢寒因テ流亡ヲ致ス者ヲ下等トス流亡十人以上ニ至ル者ハ見任ヲ解ク○參河遠江地震シ山崩レ河水壅塞シ民舍陷没多シ○武藏下野相摸上總上野常陸ノ富民千戸ヲ陸奥ニ徙ス○一品長親王薨ス親王ハ天武天皇ノ子ナリ○七月知太政官一品穗積親王薨ス親王モ亦天武天皇ノ子ナリ○左京ノ人靈龜ヲ獻ス○九月天皇位

御國史卷之三

ヲ一品冰高^{ヒカ}内親王ニ讓ル是ヲ元正天皇トス



御國史卷三終

